

不登校をやっつけろ!

親子奮戦記

最終回

名和隆子
(塾講師)

この春、小学校を卒業します

● 前回までのあらすじ

小学校3年生の頃、子どもが学校に行かなくなり、私は中学校講師の仕事辞め、親子で「子どもの心のクリニック」に通い始めました。ベテランの教師S先生と出会ったことで子どもは少しずつ学校に通い始め、クラスメイトのK君も「毎日迎えに来ます」と言ってくれました。

K君が洋平を学校へ……

たくさんのクラスメイトが家に来た次の朝、K君は一人でやってきました。責任感の強い彼は、無事に洋平を登校させられるのだろうか、とても心配していたようです。そんなK君の心情を汲みとったのか、洋平に「起きなさい。K君が来てくれるよ。」と言うと、すぐに目を開けるようになりました。

そして3学期、K君と洋平はランドセルを並べて学校へ向かいます。その様子はごくごく普通の登校風景で、これまでにあった様々なことが全て夢の中のできごとのよう。K君は6年生になってクラスが変わるまで、毎朝チャイムを鳴らし続けてくれました。

S先生はおっしゃいます。「他の子では、この役目を続けることは難しかったと思う。でも、K君自身も洋平を助けようと頑張ったことで、すごく成長できたはず。洋平も努力してる。感謝だよね、お母さん。子どもの力ってすごいよね。」そう、感謝です。K君に5年2組のみんなにも。子どもの心のクリニックの先生にも。そして何より、S先生に。

6年生になっても、まだまだ手が離せないと思われたのかS先生が担任でした。S先生は学校生活の

ことだけでなく、洋平と様々な話をしてくださいました。洋平はそんな先生を心から信頼し、様々なことを教わっていました。

卒業を前に、考えること

3年前の夏に夫が家を出て、私は新たな仕事を始め、そして子どもは不登校になりました。それはまるで私たち親子二人が、いつ沈むともわからない小さな船で海にこぎ出したかのようでした。様々な出来事に、船はいつ沈んでもおかしくありませんでした。それでもまだ海に浮かんで、今は暖かな太陽の光を楽しむこともできます。それは、いつも身の回りにいて支えてくださった方々のおかげです。

これまで不登校はTVや新聞の中の言葉で、自分とは関係のないものでした。そして不登校は、突然やってきたのです。わが子の不登校にまつわるトラブルを皆さんにお話することは、私にとっても本当は恥ずかしいことでした。それでも、色々な人に向かって「助けて」を発信し続けたことで、多くの方々から暖かい手助けをいただきました。

この春から洋平は中学生。また予想もしない出来事に合うかもしれません。「ああ、限界を超えている」と思ったら、私はこれからも助けを求めるでしょう。「ごめんね。ありがとう。」と言いなながら。

終わり

※全6回にわたり、読んでくださってありがとうございました。